

令和7年度第1回 白井市地域福祉計画策定等委員会 会議録（概要）

- 1 開催日時 令和7年7月22日（火）午後1時30分から午前3時20分まで
- 2 開催場所 白井市役所本庁舎2階 災害対策室2. 3
- 3 出席者 松山 毅委員（委員長）、市川 温子委員、入江 富士子委員、
岩田 明子委員、川村 俊男委員、佐々木 美穂子委員、
瀬嵐 康之委員、中野 靖子委員、松嶋 倫治委員、渡辺 正明委員
- 4 欠席者 島田 知則委員、白石 芳朗委員、徳重 史帆委員、
野田 桃香委員、松本 千代子委員（副委員長）
- 5 事務局 内藤社会福祉課長、青木係長
松田危機管理課長、石田障害福祉課長、奥村高齢者福祉課長、
相馬子育て支援課長、竹内健康課長、
白井市社会福祉協議会 赤間事務局長
- 6 傍聴者 2人
- 7 議題
(1) 第2次地域福祉計画の進捗評価について
(2) 地区別ワークショップ実施報告について
(3) 第3次地域福祉計画の体系（案）について

8 議 事

事務局 本日はお忙しい中、またお暑い中、ご出席をいただきましてありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、社会福祉課の青木と申します。令和7年の4月の人事異動に伴いまして、社会福祉課に拝命を受け、地域福祉計画を担当させていただきます。よろしくお願いたします。ここで、委員の皆様につきましても人事異動等により新しく委員になられた方がおりますので、ご紹介をさせていただければと思います。まず、名簿番号4番、白井市の自治連合会から川村俊男委員でございます。

委 員 こんにちは。川村と申します。白井自治会の自治会長をやっております、今年度の自治連合会の副会長ということで、こちらの委員に拝命いただきました。ありがとうございます。何かお役に立てればと思いますので、よろしくお願いたします。

事務局 続いて、名簿番号10番、白井市小中学校長会の中野靖子委員でございます。

委 員 桜台小学校の中野と申します。よろしくお願いたします。

事務局 任期は令和9年9月30日までとなっておりますので、よろしくお願いたします。また、今回会議の議題の関係から、関係各課の課長にも出席をいただいておりますので、ここで紹介をさせていただきたいと思います。松田危機管理課長で

ございます。

事務局 松田と申します。よろしくお願ひします。

事務局 石田障害福祉課長でございます。

事務局 石田です。よろしくお願ひいたします。

事務局 奥村高齢者福祉課長でございます。

事務局 奥村です。よろしくお願ひいたします。

事務局 相馬子育て支援課長でございます。

事務局 相馬です。よろしくお願ひいたします。

事務局 竹内健康課長でございます。

事務局 健康課長の竹内です。よろしくお願ひいたします。

事務局 なお、前回の会議に引き続きまして、市の社会福祉協議会の赤間事務局長と、第3次地域福祉計画策定業務の委託業者である、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の担当者の方にも、同席をしていただいております。

ここで、皆さんにお詫びがございます。まず資料の送付ですが、15日の庁内検討委員会開催後、16日に資料を郵送させていただいたのですが、本日朝の時点でまだ届いていないとご連絡をいただいた方がいらっしゃいました。資料が、当日配付となってしまいましたことに対して、お詫びを申し上げたいと思います。誠に申し訳ございませんでした。

続きまして、お手元に配付しております資料の確認をお願いします。まず本日の次第と名簿です。議題1の資料が、A4サイズの資料①、横型の資料②です。議題2白井市地区別ワークショップ結果とりまとめの資料が、A4サイズの厚い資料となっております。最後に、議題3としまして、資料①～⑤からなるA4とA3サイズのミックスの5枚の資料となります。資料はございますか。また、議題1の資料①②を本日差し替えさせていただきましたので、合わせてご対応いただきたいということを重ねて、お詫び申し上げたいと思います。申し訳ございませんでした。

それでは、会議の前置きが長くなりましたが、令和7年度白井市地域福祉計画策定等委員会第1回会議を開催したいと思います。初めに、松山委員長よりご挨拶をお願いしたいと思います。

委員長 皆さん、こんにちは。暑いですね。駐車場からここに来るだけでも、結構暑くて本当に先が思いやられます。

今、事務局から丁寧にご説明ございました。新しい委員の皆様、どうぞよろしくお願ひします。本日は、欠席の方が多いようですが、令和6年度の評価と、ワークショップの結果と、骨組み、方向性についてご報告があるかと思ひます。この評価のところも、次の計画に反映していくために、やはり総括をきちんとしなければならぬと思ひます。今日は関係課の方々も来ていただひておひますので、気になるところがありましたら、ぜひ積極的にご質問いただひければと思ひます。短い時間だと思ひますけれども、どうぞよろしくお願ひします。

事務局 ありがとうございます。本日は、松本副委員長、島田委員、白石委員、野田委員、徳重委員につきましては、所用のため欠席となりますが、過半数の出席をいただひておひますので、会議開催の条件を満たしておひます。

次に本会議につきましては、会議運営の透明性と公平性を図るために、白井市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして、原則公開とするため、傍聴を許可しておひます。

また、会議録の作成のため、会議中は録音をさせていただきますのでご了承ください。

それでは、会議の進行につきましては、規定により委員長が行うこととされておひますので、松山委員長にお願ひしたいと思ひます。松山委員長よろしくお願ひいたします。

(1) 第2次地域福祉計画の進捗評価について

資料：議題1資料①進行管理シート評価一覧

議題1資料②【まとめ】進行管理シート（R6実績評価）

委員長 それでは、議題に入っていきたいと思ひます。(1)「第2次地域福祉計画の進捗評価について」ということで、事務局からご説明をお願ひします。

事務局 (議題(1)について説明)

委員長 ありがとうございます。ただいま、第2次地域福祉計画の進捗評価について、事務局からご説明いただきました。何か皆様のほうからご質問ご意見等ございましたら、よろしくお願ひいたします。この方向性という最後におっしゃっていた右側のところですが、これは次の計画にも反映するという意味でよろしいでしょうか。

事務局 はい、そのように捉えておひます。

委員長 これからつくろうとしている計画は、基本的に第2次計画のほぼ全てを含んで、また新たな課題をここに付け加えていくような計画になるのですか。

事務局 はい、おっしゃるとおりです。ただ、今回いろいろと課題を抽出した中で、一部指標自体が適切かどうかという問題が、関係課といろいろな話をする中でありました。第3次地域福祉計画では指標自体を少し見直したらどうかというご意見もありましたので、その辺も踏まえて検討をしていただければと思います。

委員長 ありがとうございます。何か気になるところ、疑問などありますか。

委員 28番と32番ですが、まず28番は前年に比べてAがCになって評価が落ちているわけですが、説明を見ますと「実施できていない箇所があるため、順次作業を実施する必要がある」と記載されています。この原因は、人が足りないのか、予算が足りないのか、どうなのでしょう。

事務局 危機管理課からお答えいたします。現在の市内地区の整備状況ですが、防災倉庫は30か所、厳密には市役所が東庁舎地下に倉庫があるので31か所になります。こちらの防災倉庫に、地域防災計画で定める備蓄目標量がきちんと整備されているかということで、令和5年度までは決まったシートでローリングストックをしながら管理をしていたのですが、令和6年度から実際にその1つ1つの倉庫の中を点検するだけでなく、置かれている状況も1つずつ整理し、結果的に令和6年度中に実施できたのが9か所でした。引き続き、データ上の数値と実際にあるもの、置き方の整理も含めて、全て実施してまいりたいと考えておりますので、そういう意味で、このような評価にさせていただきました。

委員長 よろしいでしょうか。

委員 はい。

委員長 今日の差し替えの資料②ですが、何が差し替わっているのか説明をお願いします。

事務局 15ページですが、皆さんに最初にお渡しした資料では、46番の評価の部分が47番に落とし込まれていましたので、その部分が入れ替わっています。取り組み項目と評価内容の一部が、番号が違うところに入ってしまったということです。

委員長 はい、分かりました。今の15ページのところは、包括的な相談支援とか、参加支援とか、地域づくり支援など共生社会の推進というところに該当するかと思います。キーワードとしては重層的支援会議など書いてあるのですが、白井市としては重層的支援体制整備にも取り組んでいく方向になるのでしょうか。

事務局 現時点において、重層的支援事業としては取り組んでいないですが、令和7年度から基幹相談支援センターが整備されまして、相談窓口としての整備というところでは、基本的にはどのような相談も受け付けようと考えています。今後については、重層的支援体制整備事業についても、取り組んでいかなければいけないと考えています。

委員長 分かりました。各課の個別計画の中に含まれている地域福祉計画に関連する内容については、各課で取り組んでいる評価を持ってきて、地域福祉計画でしか書いていないものは、先ほどおっしゃったような地域づくり、災害時の支援、重層的な部分も地域福祉計画ならではのポイントになってくると思います。白井市としては、今後重層的支援体制整備というものを目指していきながら、子育てと高齢者と障害者に対する包括的な相談体制もできつつあるというところですが、ほかの市町ですと重層的支援体制整備をつくらないで、包括的なそれぞれの相談窓口との連携で済ませていこうという自治体もあります。白井市としては、それとは違って重層的支援会議を開催するなど各課が横断的に組織的に取り組まなければならないということになりますので、今後第2次地域福祉計画を踏まえて、第3次ではそういう方向性も検討していきたいというように読めばいいのかなと思って聞きました。

事務局 先ほどの重層的支援体制事業は、現時点で具体的なものはありませんが、先ほど委員長のほうからありましたように、子育て、高齢者、障害者それぞれの相談窓口というのがございます。相談内容によってはそれぞれの窓口では支援が困難な関係もございますので、困難な案件に対してそれぞれの相談窓口が連携して対応していくことは、今後必要だろうと考えております。それぞれの相談窓口をつなぐ横断的な会議、重点的支援体制会議については、来年度から設置できればいいかなということで、今、検討しているところです。

委員長 分かりました。ありがとうございます。皆さんのほうから、令和6年度の取り組みについて、何かありますか。

私は白井市民ではないものですから、素朴にお聞きしたいのですが、資料②の6ページに、「地区社会福祉協議会への支援」ということで、8番「地域ぐるみ福祉ネットワーク事業補助金の交付」と、その下の18番「地区社会福祉協議会への活動支援補助金の交付」とあります。それぞれ担当課が社会福祉課と社会福祉協議会になっていますが、この違いは何ですか。財源が違うのでしょうか。もちろん社会福祉課という行政と、社会福祉協議会という民間が、それぞれ地区社協に対していろいろ支援しているのかもしれませんが、この辺の違いを教えてください。

事務局 まず8番は、社会福祉課のほうで所管している補助金になりますけれども、こ

ちらは市のほうから地区社会福祉協議会に交付しているもので、内容につきましては、旧小学校区の地区社会福祉協議会の拠点に関わる事務員配置の person 費であったり、拠点に関わる光熱費であったり、そのような経費となります。18 番の社会福祉協議会が担当課になっている事業につきましては、社会福祉協議会がそれぞれの地区社会福祉協議会に交付している、地区社会福祉協議会で行う活動に対する補助金ということになります。

委員長 どちらも財源は税金ですか。

事務局 当然、市から地区社協に出しているものについては、税金になります。

社 協 18 番のほうは、社協の会費等を充てています。

委員長 私はいろいろな市町に関わっていますが、拠点とか事務員とか光熱費をこのような形で出している市町村ってありますか。あまり聞いたことがなかったです。普通、一地区社協に対して、社会福祉協議会から拠点とか person 費も含めて、市町村ごとで違いますけど、20 万くらいのところもあれば 100 万近く出しているところもあります。白井市の場合は、8 番のところ拠点とか事務員さんの person 費とか光熱費に対して、単純に 800 万ぐらゐを 9 地区社協で割ると、結構な金額になりますし、プラスで 18 番の事業費を合わせると、各地区社協におそらく 100 万以上のお金がかかっていると思います。これは地域福祉活動の支援、地区社協に対する支援として手厚いのではないかなと思います。逆にこういうところをうまく生かしていただいて、行政や社協というのが、地域福祉活動、市民の活動を応援することに力を入れているというのも、売りになっている気がします。

地域福祉計画というのは、やはり住民が主体的に地域福祉活動に参画できるようにしていくために、どのように行政が支援できるか、社協が支援できるかだと思います。動くのは市民ですが、勝手に動けというわけにはいきませんし、やらせることもできない中で、これだけ手厚くしているというのは、ある意味もっと評価されてもいいのかなと思ったので、確認させていただきました。

そのほかはいかがでしょうか。先ほどの危機管理課のほうの、資料①裏面の C 判定だった 32 番「避難支援プラン（個別避難計画）の策定」ですが、なかなか進まない理由というのは何かあるのでしょうか。これは確か努力義務でしたよね。C というのは目標値に達していないのか、どういう C なのかなと思ってお聞きしたいです。

事務局 避難行動要支援者に対する支援につきましては、基本的には全体計画に沿って進めています。個別避難計画は努力義務となっていますが、令和 4 年度に 1 件作成しています。しかし、個別避難計画の策定を誰がやるのかというところが、なかなか整理がついていない状況です。昨年度は関係課で集まって 3 回ほど会議をさせていただき、今年度は全体計画については改正しました。新たに人工呼吸器

だとかの医療的なケアを必要とする人を優先的に個別避難計画の策定を進めていく対象と位置付けたところです。まずは土砂災害警戒区域など、優先的に支援をしていかなければいけない方をターゲットとして、今年度着手していこうとしています。昨年度は、全体計画の改正まで至りませんでしたので、このような結果となっています。

委員長 ありがとうございます。すごく難しいのは分かっております。どこも苦労されています。やはり白井市でどんな災害が起きるのかを想定すると、海が近いわけでもありませんし、地盤もそんなに悪くないとなってくると、土砂災害や停電が一番怖いです。人工呼吸器をつけている方々は、ある程度バッテリーを持っていますけども、そんなに長く持たないので、そういう方々は生命維持のために電源確保をどうするかというのは、一番の課題のようです。それと今の話のように、電源を必要とするような難病の方や、障害のある方、災害の起きそうなところにいる方を、どのように誰が安全確認、情報提供をして、避難誘導するのか、それと個別計画を誰がつくるのかですよね。名簿の作成は、手挙げ方式とか行政が把握している要介護認定とか、支援区分の対象者をピックアップするなど、名簿に載せるところまではなんとかなっても、個別支援計画は誰がそれを作成して管理していくのかというところが、どの市町も難しいみたいです。大きい市町は、民間業者に委託しているところもあるみたいです。行政直営でやるのか、包括支援センター、基幹相談支援センター、そういうところで連携してやるのか、白井市ならではの議論をしていかなければいけないと思います。この辺りも地域福祉計画は重要なポイントになってくると思います。ぜひ、議論を進めていただいて、次の計画にはもう少し具体的な道筋が書けるようになってくるといいのかなと思って聞いていました。ありがとうございました。

ほかに、いかがでしょうか。それでは、議題（１）は、以上とさせていただきます。よろしいでしょうか。

〔異議なし〕

委員長 ありがとうございます。

（２）地区別ワークショップ実施報告について

資料：議題２ 白井市地区別ワークショップ結果とりまとめ

委員長 それでは、議題（２）「地区別ワークショップ実施報告について」ということで、事務局より説明をお願いします。

事務局 （議題（２）について報告）

委員長 ありがとうございます。ワークショップに参加された方はいますか。改めて今の報告を聞いて、思い出されることもあったかと思いますので、感想でもご指摘でも結構ですのでお願いします。

委員 私は白井駅前センターで初めて参加させていただきましたが、終わってみて非常によかったと思いました。私は4年前に引っ越してきて、近所は30代40代の若い人、小学生とか小さいお子さんばかりなので、普段はあまり接点がないです。ゴミを捨てに行く時などに会うと、必ず挨拶する人と、何回挨拶しても無視する人といろいろな方がいます。挨拶をすることとほかの人に迷惑をかけないこと、これが生きている上で大事なことではないかと、ずっとみんなに言っています。このワークショップに参加した時に、同じグループのファシリテーターの方が同じような話をされて、私は3回挨拶して返事がなかったらもう無視しますと言ったら、その方に私は何回でもいきますと言われました。こんな人がいるのだなと自分も反省したところでした。非常にいいミーティングだったと思います。

委員長 ありがとうございます。お写真を見ても、その盛り上がった雰囲気伝わってくるのですが、その辺りのリアルな声をお聞かせいただきました。

委員 私のグループは、ファシリテーターの方が若い方で、こういう会に若い方も参加するのだとすごく驚きました。どうしても福祉というと高齢者、該当世代にかかる人が参加するものだという意識があったので、若い人も参加してくれたことに感動いたしました。

委員長 どちらの地区に参加されましたか。

委員 池の上なので、白井駅前センターです。

委員長 それぞれの会場と人数を見ても、これが多いのか少ないのか、どう評価しているのか分からないのですが、全体で92人です。委員からありましたけど、ファシリテーターは、市民協働ファシリテーターの方でしょうか。

事務局 市民活動推進課のほうで進めている事業です。地域で行う話し合いなどをまとめていく中心人物を育てようという事業がございまして、その中で講座を受けて、登録をしている方々をこのような会等で活用していくという状況です。今回は白井駅前センターと西白井複合センターで、計4名の方に参加していただきまして、特に白井駅前センターでは、まだ20歳前の方がファシリテーターとして参加してくださいました。

委員長 ありがとうございます。市としてファシリテーターの人材養成をして育てるだけではなく、活動していただけるような場をつくっているのですね。実際は育てっ

ばなしというところが多いので、見事にそういう方々に役割を果たしていただけて、意見がたくさん出ているのもすごいなと思って見ておりました。ちなみに、ファシリテーター以外の参加者の年齢層と、性別はわかりますか。

事務局 正直確認はしていませんが、やはり高齢の方のほうが多いのは事実かと思います。性別は、どちらかというとなり女性の方が多かったという印象を持っています。

委員長 これは公募ですよ。

事務局 そうです。お知らせとしては広報やホームページなどを活用させていただいたのと、あとは直接民生委員さんとか地区社会福祉協議会などを中心にお声かけさせていただきました。

委員長 これは、今後次の計画に活かしていく、ニーズ調査的な意味合いのワークショップだったということですか。

事務局 はい。

委員長 これは、社協の地域福祉活動計画にも反映していきますか。

事務局 社協のほうでも活用していきます。

委員長 報告書が分厚くてすごいと思いますし、大変おもしろく読ませていただきました。これだけ、テーマごとに関心の違いもあって、ここからいろいろなものが読み取れる気がします。参加された方の興味関心があるテーマは何だということもそうですし、あとは本当にファシリテーターの方が上手だったなと思います。それぞれ現状・課題、自分・地域でやること、市にお願いしたいことを、まとめたのだと思いますが、現状・課題のタイトルを見て拾っていくだけでも、実際の現状と課題のおおよその枠組みがイメージしやすいです。何より自分の地域の話ということで、委員がおっしゃったような挨拶ができないような地域が、そもそも助け合いとか支え合いができるのかとか、挨拶しない自由もあるけど、でもやはりそういうところから地域の中でできるとか、そういうことが書かれてあるということは、逆にこういうのを市民に対してもアピールしていけばよいのだと、いろいろな意味で、これまでもこれからも地域福祉のキーワードとかアイディアとかを再確認できるような、いいワークショップだったのだなと感じました。ここに書いてあることを、おそらく住民レベルでの助け合いのところは、社協の地域福祉活動計画が拾っていくところになると思います。こういう活動を支える行政の地域福祉推進施策ということで、これを裏付け根拠にして、先ほどの拠点に対する支援というの、こういうものを進めるために行政が応援する、地

域包括支援センターのこういう取り組みとここは連携するなど、紐付けていくことで、すごく生かされるような気がしました。これを生かせるのが非常に楽しみだなと思っています。皆様のほうから何かありますか。

委員 参加させていただいたのですが、日にちが合わなくて、自分の地域ではないところに参加しました。やはり感じ方が違いました。一緒だったのが、移動手段とかアクセスのこと、それとコミュニティの弱体化です。コロナ禍で外に出なくなったというところは一緒でした。免許証を返納してしまうと移動手段がなくなるので困る、ナンバー号だけではとてもではないけど動けないというのが、同じだと思いました。

委員長 ありがとうございます。やはり地域特性というのがありますし、市全体で共通する課題もあります。その辺りは計画の中でも全体で取り組むことと、地域で取り組むこととあります。移動手段の確保というところで、行政ができる範囲と、地域の中で自分たち自身が課題意識を持ってできることとあると思いますが、困った時に声をかけて、一緒に買い物に行っているよとか、昔だったら普通にやっていたと思いますが、今はリスクがあるとか、下手に運転できなかつたり、声をかけられなかつたり、やりにくくなりました。

先日、四街道市の会議で同じような話題になりまして、うちの地域では自治会単位でそういう声かけをしていて、買い物や通院をする時に、ボランティア保険の範疇で車に乗せてあげるような活動を立ち上げたということを知りました。15人ぐらいの委員の中で、2つの自治会が実際立ち上げていますと言われていました。社協の方もそれを知らなかったのも、自治会の中でその課題に気付いて、自分たちに何ができるかなと動いた事例でした。当然リスクのことはきちんと確認しないといけません、自分たちの地域でやれることはやろうという思いはあるので、うまくピックアップしていきながら、共有して、うちでもやろうみたいな話になると少し広がっていくのかなと思います。ご意見の中から、実際に困っていることと、地域に実際にある資源、どんな活動をしているかということ調べていくと、いろいろなものを実は結構やっていらっしゃる気がします。そういう情報収集をしていただけたらと思います。

ありがとうございます。そのほかは、いかがでしょうか。感想でも結構です。ゆくゆくは学校でこういうのができませんかね。

委員 今年度から白井市は、コミュニティスクールというのを全学校で始めまして、地域の方との交流の活動というものをそれぞれの学校が考え始めています。桜台小学校は2年目になるのですが、地域の方に言われたことがすごく心に残っています。それは、挨拶が盛んな地域は犯罪が少ないということで、それを聞いた地域の方たちが、学校に呼んで顔見知りになってほしい、子どもたちとつなげてほしい、と言ってくださいました。そういうところから挨拶というのは始まるのかなということで、地域の方々にいろいろとご協力をいただいて、子どもたちの教

育にお力添えをいただいています。

委員長　やはり学校は、皆さんが地域で一番集まりやすいところです。そういう意味では、学校を中心にコミュニティスクールという制度も始まったところですので、地区社協さんを中心にうまく使えると思います。コロナになってから、なかなか学校とお互い接点が結びにくくなっていたので、コミュニティスクールを活用している地域はたくさんあります。また、そういう発信をしていただくと学校とコラボできることも増えてくると思いますので、引き続き何かありましたら情報提供をお願いします。

そのほかには、いかがでしょうか。それでは、この結果は行政計画、社協の地域福祉活動計画それぞれに生かして、うまく反映していただきたいと思います。

もう1つ議題がありますので、先にこちらのお話を説明していただいてから、まだ発言していない方に一言ずつ発言いただきますので、言い残したことなどあればそこでまたお聞きしたいと思います。よろしくをお願いします。2つ目の議題については、以上とさせていただきます。

(3) 第3次地域福祉計画の体系(案)について

資料：議題3資料①【概要】白井市第3次地域福祉計画

議題3資料②【白井市第6次総合計画との位置付け】白井市第3次地域福祉計画

議題3資料③【めざす姿】白井市第3次地域福祉計画

議題3資料④【体系】白井市第3次地域福祉計画

議題3資料⑤【構成の変更点】白井市第3次地域福祉計画

委員長　議題(3)「第3次地域福祉計画の体系(案)について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局　(議題3について説明)

委員長　ありがとうございました。これは、まだ骨子案というわけではないのですね。体系図というか、イメージというか。

事務局　はい。

委員長　分かりました。ありがとうございます。皆様のほうから、何かご意見ご質問がありましたら、よろしくをお願いします。今回は、2ページにありますように、「循環」「挑戦」「守り」というキーワードですね。前は違うキーワードだったと思いますが、こういうつくり方なのですね。5ページを見させていただくと、戦略プランから基本目標になって、かなり今日的な課題になっています。前は10年

前ですから、状況が変わっていることを拝見いたしました。いかがでしょうか。次の会議で骨子案でしょうか。

事務局 次の会議は10月頃を予定しているのですが、計画の素案みたいなを出したいと考えています。

委員長 実質、骨子案的なものがこれになるということですか。

事務局 はい。そうです。

委員長 我々は、素案のところまで上がってきってしまうと、なかなかものが言えなくなってきました。ですので、この骨子案ですと、まだいろいろなアイディアに対して、こういう文言とかこういう観点はどうだとか意見も言いやすいと思いますので、ぜひ気になったこととか、もっとこういうところを入れてほしいとかありましたら、ご指摘いただいたほうがよろしいかと思えます。

めざす姿とか、この文言で皆様大丈夫ですか。10年間、これを目標に旗印にして、我々は地域福祉を進め、こういう白井市を目指すということです。端的に今、白井市は何が課題だ、人口減少なのか、資源が足りないのか、高齢化が進んでいるのか、産業なのかというのが、もう少し見ると、よりこの計画が目指す方向性がはっきりすると思います。行政、事務局のほうで、これまでの各種調査を通して、例えば組織として問題がある、縦割りがやはりまだまだ強くて、実は横断的とか包括的というところが全然横串が刺さっていないなど課題があると、我々もその課題解決にはこの施策でいいのかとか、この方向性でいいのかという意見が言いやすい気がします。皆さん多分地域レベルでいろいろ活動されているので、それぞれ活動の中で課題を感じていらっしゃると思います。次の時は、その辺をもう少し見せていただいて、この課題解決のために、このような10年間の地域福祉計画にしたいと教えていただきたいというのが要望としてあります。

それともう一点、このつくりとしてはすごくよく分かります。4ページのところの、体系のとおりだと思いますが、前回のものを拝見していても、基本目標があって、その後に基本方針があって、それぞれの担当課の方がいて、担当課ごとにそれぞれ計画があって、その中から地域福祉計画に関連あることをピックアップしてきて、それが今日の議題(1)の資料①のようなもので、全部が各課の各計画の事業に紐付いています。地域福祉計画というのはそういう見方もあるのですが、逆に例えば社会参加というキーワードがあった時に、高齢者福祉計画とか健康増進計画とか、さまざまな計画の中に社会参加について書いてあるものを集めて、社会参加というところでまとめてみると、例えば障害と高齢が一緒に何かできることはないだろうかとか、例えばサロンとか運動の場づくりについても高齢者の介護予防体操に障害者が来てもいいのではないかとか。そうすると、参加とか健康づくりというのが、高齢だけではなくて障害者の健康づくりにもなると思います。ですから、それぞれの計画の中に書いてある「参加」というのをピッ

クアップするだけだと、このようなつくりになってしまうのですが、思い切って「参加」をキーワードにして、例えばこのキーワードごとに「参加の促進」、「交流の拠点」など各計画で書いてあるものを集めると、高齢と障害で同じようなことをやっているかもしれない。それぞれにやらなくても、一緒にやれば交流もできるし、ライフステージも超えられるし。そうすると、地域福祉は縦割りではなくて、属性ではなくて、住民が、多様な人たちが参加とか交流ができるための仕掛けとなれば、各計画に見るのではなくて、テーマごとに事業を割り振ることで見えてくるものがある気がするのです。同じことを言っているのであれば、コラボしてやってみることで、もしかしたらコストが削減できる、効率性がある、効果がある、多世代交流など、新しいSDGsのような感じになって、評価ができる気がします。この計画をつくる時には、そのような視点も入れていただくと、地域福祉計画らしい推進なのかなという気がするのです。ですので、つくりとしてはこのようなことだと思うのですが、同じキーワードだけで集めてこの10年間でいくつかでも達成できると、長い目で見たら人員を効率的に配置できたり、コストもうまく予算配分できたりするような気がしてきます。多分、一朝一夕にいくものではないと思いますが、地域福祉計画はビジョン計画的なところがあって、総合計画の下にある大きな方向性・方針というものの設計図が10年間の地域福祉計画になってくるので、そのようなトライをしてみてもいいかなと思います。うまくまとまらなければ現行のようになるとは思います。めざす姿、基本目標、基本方針というのはすごく考えられているものなので、そのような視点も入れてトライ&エラーをしてみると、おもしろい計画になりそうです。

皆さんいかがでしょうか。地域福祉計画は難しいのですが、逆にどのようにでもできます。それでは、感想とかご意見とか、一言ずついただきたいと思います。順番に聞いていってもよろしいでしょうか。何でも結構ですので。

委員 私は障害者のグループホームと精神の障害者の訪問看護をやらせていただいています。そこはまた分野が違うのだらうなと思っています。あと、助産院で母子産後ケアとかも白井市ではないですがやっています。そこも、ここは少し違うのだらうなと思いつつながら、私の思いをここで出すのはすごく難しいなと思いつて参加をしています。

ただ、地域の中で障害がある人たちが生活するということで、先日、地域の防災訓練があって、そこにグループホームの入居者さんたちを連れて一緒に参加しました。利用者さんたちは、実際に何か災害があった時に、一般の皆さんと一緒に避難所に行くことがすごくハードルが高くて、無理と言っています。だけど、誰か1人入居者さんが残ると、スタッフも残らないといけないから、避難する時はみんな一緒だよ、とりあえず行こうと言いました。なにかあったらここに避難するんだねと一緒に見て、地域の人たちと一緒に防災訓練に参加ができたので、すごく達成感を持って帰ってきてくれました。地域の方々も本当に自然に、普通に接していただきました。地域のそのようなイベントや行事に参加をしていくこ

とで、日頃からつながりをつくっておくことが大事だと感じました。まとまりがなくてすみません。

委員長 ぜひ、そのような観点をいろいろと入れていただくと、具体的にイメージしやすくなってきますので、遠慮なさらずによりしくお願いいたします。

委員 学校でできることがいろいろとあると思いますので、相談をしながらやっていけたらと思います。

委員 福祉というのは、生まれた赤ちゃんから、今生きている皆さんに関係あることだと思います。白井市のことをいろいろと考えると、やはり千葉ニュータウンの一部として、30年前、40年前に引っ越してきた人がいるわけです。当時30代の人が今はもう70代80代になっており、よくネットで言われていますが、オールドタウンになってしまっているということです。地区ごと、例えば南山に何人住んでいて、65歳以上が何人いるのかという資料を見たことがあります。明らかにほかの地域よりも高齢者が多いです。やはりそれも1つ白井の特徴ではないかと思うので、そこにある程度ターゲットを絞っていくといいのではと思います。

委員長 そうですね。やはり地域ごとに健康課題や生活課題は違ってきますので、その辺りは前提にされていると思うのですが、その辺も分かるような形で披露していかないといけないと思います。

委員 災害関係で、私どもは特養をやっていますので、何かが起きた時に施設のほうでどう地域住民の方を受け入れられるかというところを課題として考えております。白井市さんのほうでも、災害に関して現在進行形ですが、そういった部分で検討ができたらと感じているところです。それから、私個人的な感想として、今回のこの第3次地域福祉計画でも、住民の方が安心して長く住み続けられる計画、このまま長く住み続けたいなと思うような計画ができていくのかなと少し楽しみに感じた部分があります。それから、皆さんが考えていることだと思うのですが、できれば住みたいまちという形で、外から白井市に引き込めるような何かをみんなで考えていけたら、もっとこの地域福祉計画が充実することにつながるかなと感じています。

委員長 確かに東京からも近いですし、意外と便利ですよ。

委員 白井市に住みたい、こういうところがあるから白井市に来たいと思っていただけると、人口の増加や、若い方たちを引き込みにつながると思います。ずっと長く白井市が栄えていけたらいいなと思います。

委員長 少し弱いと思ったのが、施設関係のことがあまり出てこないです。でも、今社

会福祉法人とか施設の地域貢献とか社会貢献というのが、大きなミッションになっていますので、そういう中で地域の社会福祉法人や施設とどう連携するかというの、この計画の中で、もう少しボリュームがあってもいい内容だと思います。地域福祉活動計画との関連でもありますが、その観点からも引き続きご意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

委員 自分のほうは自治会、自治連代表ということですが、めざす姿とか、まさしく自治会に精通すると感じました。自治会ごとにこのようなめざす姿に取り組んでいければ、まとまるだけの話なのですが、その自治会ごとにいろいろな悩みがあります。交流、災害、防災絡みということで、よく言われている祭りだとか、防災訓練でいうと参加しやすい行事というのはあるのですが、なかなかそれを実施していく、実働することが非常に困難な状況下にあります。このような目標の計画がされているというのは、自治会としても非常に指針になります。3つに分けたジャンルで基本目標が掲げられていますけども、自治会もそういう状況なのだなど、そういう目標を立てて動いていくことが大切なのかなとつくづく思いました。

委員長 ありがとうございます。今日は民生委員さんがご欠席ですけども、自治会や民生委員が、まさに地域福祉の要になってきますので、ぜひ、今おっしゃったような、具体的にどうやってやるのか、これではできないということも含めてご意見をいただければと思います。次の素案のところでは、もう少し具体的な施策も書かれてくると思いますので、そういう観点からぜひいろいろご指摘ご意見をいただければと思います。

委員 皆さんとほぼ同じような考えなのですけれど、大山口の町会自治会についてです。町会自治会が一緒になって、地域の防災に力を入れてやりましょうということで、町会自治会が音頭をとって150人くらい集まりました。それでグループごとでいろいろな話し合いをして、大山口に住んでいる限りは、少しは大丈夫かなという安心感を持っています。

委員長 そういうのは大事ですよ。やっぱりなかなか集まらないという話を聞きますけど、集まってこういうことができましたというのは、ぜひ皆さんに共有していただきたいことです。なぜ、そこがうまくいったのか、地域性なのか、意識なのか。そういうのはいろいろ学べることが多いと思います。また、引き続きいろいろ発言いただければと思います。

委員 私が所属しているのはボランティア連絡協議会です。設立は社協さんより古くて昭和57年という歴史があるのですが、今やはり先ほど委員さんがおっしゃったように高齢化が進んでいます。会員の皆さんが本当に高齢になってしまって、免許証を返上して動きが悪くなったなど、いろいろな課題が今出てきております。

皆さんボランティアでがんばっていらっしゃるの、なんとか引き続き、地域のお役に立てるように、社協と協力しております。これも、未来につながって、白井市が元気になっていけばいいなと思っています。

委員長 ありがとうございます。まさにこのめざす姿のお話をしていただけたと思います。会員の高齢化はどここの団体も、白井市だけではなく、今の世の中全体がそういう流れです。新しい団体のあり方、新しいつながり方をどうつくっていくのかというのも議論していかなければいけないですし、そこに子どもたちや若い人たちをどう巻き込めるかという作戦を練って、計画に落とし込めると、またおもしろいものになってくるかと思っています。素案の時には、ぜひその辺りを見ていただければと思います。

委員 先日 65 歳になって、福祉課からお手紙をいただくようになって、段々お世話になる番になってきたなと思いながら過ごしています。私も、いろいろな会に属していますが、昔は定年が 60 歳だったのが、今は 70 歳まで働いています。70 歳まで働くと、その後すぐに地域に溶け込めるかといったら、そうではないです。そこからゆとりを持って旅行に出かけるとか、自分のたのしみをまずは探して、そこで余暇があると地域では何をやっているのだろうみたいな。だから、今までよりも 10 歳高齢になってから、地域に貢献し始めるのではないかと思います。今回資料をいただくのが遅かったのも、この資料をしっかりと読み込めてなかったのですが、各課の課長さんたちがせっかく来てくださる機会ですので。例えば市民参加で、市民大学を募集した時に、抽選であふれるほど申し込みがあるのかどうか、それから受講した後にちゃんとそれが卒業生として独り立ちして、今度は後継者としていろいろなところで活躍をする場があるはずですが、それが継続してできているのかななども含めて、やる価値があるかどうかにつながってくると思います。

今いろいろな面で携帯がないと、情報が得られないというのか、広報を見ても詳しい部分は QR コードで読み込んで、みたいな部分がすごく増えています。若い人は当たり前のようにやりますが、高齢者になってくるとそれをする気力もないですし、それをやるすべを知らないです。情報を取れる人と取れない人で差が出てきています。それこそ、少しの時間が空いているからお仕事します、のようなサイトもありますので、ボランティアでもそのような募集の仕方でもいいのではないかと思います。

各家庭においても、今までは女性が家を守って家の仕事をして、男性が外へ出てという形から、共働きが当たり前になっています。休みの時ぐらいゆっくりしたいよという気持ちもすごくよく分かります。だから、どこまで市民がやらないといけないのかという部分もあります。先ほど白井市に住みたいという話も広げていきたいとありましたけど、すぐ隣の印西市はそのような面では財政も豊かで、急行も特急も停まるし便利がよくて、商店も大きなところがあるので、それを比べられてしまうと、白井市の本当にいいところはここという部分をアピールして

いかないと、本当に千葉ニュータウンの中でも隠れてしまう自治体になってしまいます。

社会福祉協議会の予算を市が出しているのは珍しいことと知らなかったものですから、多分私が知らないということは、市民のみんなも知らないと思うのです。だからアピールしていく必要が絶対あると思います。高齢者で元気な人もいっぱい知っています。手助けできる部分を持っている人がたくさんいるので、情報発信をうまくして人と人をつなげれば、人も集まるのではないかと思います。

こういう会議を、毎月のように民生委員はやっていて、拘束される時間が多いのだろうと思っていますが、それも Web 会議などができれば、時間もできるだろうと思っています。いろいろな方法が最近出ているので、今時のやり方をなるべく取り入れて、それについて来れない人を引っ張ってあげる、人を育てるということが必要なのではないかと思います。ありがとうございます。

委員長 皆さん、言いたいことはいろいろとあると思いますが、仕組みの話になるとなかなか意見がしにくいというところがあるので、そこがこの会議の難しいところです。地域福祉計画というのは、やはりそのような仕組みをつくる部分もあるのですが、先ほど申し上げましたように、今のような課題ベースで、その課題があつて、その課題解決にこの仕組みが機能するかどうかというところが大事です。実は形はきれいにつくれるのです。でも、それが本当にその地域に即していて、本当にこの課題解決に機能するかどうかというのは、皆さんの今のようなご意見を踏まえて、計画の素案をぜひチェックしてほしいです。書いてあるけど、これで本当に解決できるのか、ぜひ次回の時には、皆さんの活動や今感じていらっしゃる課題意識の観点から、計画の文言を見てください。それについて意見交換をして、具体的にここに書かれてあることは、何が担保されているのか、何を目指しているのかなど、そのようなやり取りができる会議にしていくことが、できあがった計画を実のあるものにしていくためには必要だと思います。

それでは、事務局にお返しします。

事務局 本日、審議していただいた内容につきましては、市としての合意形成を図るために、8月に行政経営戦略会議に諮りたいと考えています。その後、計画案ということで審議会を開催したいと思います。次回は10月20日前後を予定しております。資料が当日配付となり、議論が難しい状況であったかと思います。次回は、皆さんに資料を事前配付できるように進めさせていただきたいと思います。事務局のほうからは以上となります。

それでは、以上で白井市地域福祉計画策定等委員会第1回会議を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。

以上

使用した資料

議題1 資料①進行管理シート評価一覧

議題1 資料②【まとめ】進行管理シート（R6 実績評価）

議題2 白井市地区別ワークショップ結果とりまとめ

議題3 資料①【概要】白井市第3次地域福祉計画

議題3 資料②【白井市第6次総合計画との位置付け】白井市第3次地域福祉計画

議題3 資料③【めざす姿】白井市第3次地域福祉計画

議題3 資料④【体系】白井市第3次地域福祉計画

議題3 資料⑤【構成の変更点】白井市第3次地域福祉計画